第8回：畳

山本康彦の

自然のチカラ、住まいの素材

本当の建築塾

家づくりに本当に必要な自然由来の建材とは？

「住いを健康に」「自然素材でつくる家」などキャッチコピーだけが街中に溢れる昨今。そもそも自然素材とは家づくりに必要な建材のこと。今回は、日本の風土や環境に一番適応している、伝統や歴史のある身近な部位や建材の話を前回の、<和紙>に続いて『畳』について解説をさせて頂きます。

解説◎山本康彦
取材協力◎株式会社ワイズ

日本の床…そもそも畳とは？

基本的に畳の構造は大きく分けて「畳床」「畳表」「畳縁」からできています。畳床（たたみとこ）は、40㎝もの稲藁（いなわら）を重ねたものを厚さ5㎝になるまで縦横5～7層になるように圧縮、縫い上げていきます。

その芯床の上に、イ草を編み込んで出来た敷物状の畳表（たたみおもて）でくるみ作ります。縁には畳表の固定と装飾を兼ねて、畳縁（たたみべり）と呼ばれる帯状の布を縫い付けますが、琉球畳などで知られるように縁の無い畳もあります。

畳の歴史は古く、現在の畳の構造に近いものは、平安時代（1200年前）頃からはじまったと言われ、庶民が使用できるようになったのは江戸時代中後期以降の様です。当時の日本は大陸からの伝承、伝来によって、発展、進化したものが多い中、畳は世界に類がない日本固有の床であり、文化でもあります。

畳の現状

昨今の家づくりでは、フローリング（板間）の床が好まれ、畳の採用が減少しているようです。実際、新築マンションや建売物件でも、和室が無い、畳が存在しないお宅も多いようです。調査では、平成5年に4500万枚あった国内の畳表需要量が、平成24年には1490万枚にまで減少したというデータもあり、この20年間で、約3分の1にまで減った事になります。

驚くべき畳の性能

丹精込めて育てられた国産の天然イ草の優れた機能に、さらに藁床の機能が加味され、畳の驚異的な性能が発揮されます。それは工業製品の畳では全て網羅出来ないほどの性能を秘めています。

■保湿性

畳表であるイ草（国産）の内部は、スポンジの様なミクロの綿状で、この綿には、とても小さな穴が開いており（無着色の畳表の場合）、この穴やスポンジ部分が空気中の湿気や水分を吸収します。畳床である藁にも空気がある為、同じように性能を発揮します。

■断熱性、保温性

空気は熱を伝えにくい性質があり、畳床の藁の中の空気があたかも羽根布団やダウンジャケットの様に冷気は遮断し、蓄えた熱を逃がさない性質で畳の床は温かいのです。

■調湿性

イ草は常に12%前後に含水率を保つ働きがあり、畳を敷いた和室などは常に湿度が約40%に保たれています。イ草内部のスポンジが湿気を吸収し、畳床のなかの藁が空気が湿気を放出しながら、効率的に呼吸しているわけです。畳一帖分の自然吸湿能力は約500㎖あると言われています。畳は、そのほとんどが植物でできています。その植物がもつ性能は、空気を含むと同時に湿気を吸ったり吐きだしたりして、部屋の湿度を調整する働きをしています。畳の敷かれている部屋は、夏は涼しく冬は暖かいという特徴があります。

■遮音、吸音性

イ草繊維の空気層はたくさんの空気を含んでいます。この空気が音を吸い込む吸音効果や音を遮る遮音性にも優れています。畳の部屋はほかの板間の部屋に比べて、静けさを感じます。実際に畳の空気が余計な音を吸収してしまうからです。和室やお寺などで感じるシーンとした静けさは、畳の性能もあるという事ですね。

■**弾力、柔軟性**

畳床の稲藁の中には、たくさんの空気が含まれています。この空気は、ショックを柔らげる力にも作用します。ぎっしりとつまった稲藁の中の空気が、衝撃を受けた瞬間に吐き出され衝撃を弱くします。クッション性能も適度にある為、畳（稲藁の畳床）の部屋に入ると畳の柔らかさが素足に気持ち良いです。歩くときに適度なかたさと柔らかさを感じ、ほかの床材にない絶妙な弾力性も畳ならではの性質ですね。

■**浄化作用**

イ草のスポンジ状の断面はセルロース繊維のハニカム構造となっています。

拡大するとミクロの空洞が無数に存在します。その無数の穴が作用し、イ草自体に空気汚染物質の二酸化窒素を90分で5分の1以下に浄化する機能があると言われています。国産の天然イ草には0・157に対する抗菌性もあるので、小さいお子様がお住まいのご家庭にもおすすめです。

■**リラックス効果**

畳の清潔感ただよう独特の芳香はイ草によるものですが、精神沈静効果があると言われています。畳だけでなく、イ草でできたござや枕などで安眠ができるのは、イ草が持つ香りや成分を使って、あたかも森林浴の様な「リラックス効果」が得られる、アロマテラピーの効果によるものなのでしょう。また日本人には、畳に敷いた布団に寝るほうがベッドより背骨に良いことも立証されているようです。

■**難燃性**

「寝たばこで火災」を連想するように、畳は燃えやすいと思っていませんか？

畳床は40㎝ほどの層にした稲藁を5㎝程まで圧縮して作られたものです。

燃えやすい紙でも、電話帳などの何層にも重なったものは燃えにくいという性質がある通り、ギュッと圧縮させた稲藁は燃えにくい性質があります。

また、植物から作られているので有毒ガスも出ません。

これからの畳とは？

まだまだ、ここでは書き切れない程の優れた性能や性質がありますが、使い込んで表面が色あせていく（退色と畳表の品質にはほとんど関連がありません）様子を楽しんだ後は、定期的に畳の表面（畳表）だけを取り替えることで長く（50年以上）使う事も可能であるのが畳です。

日本の住宅から畳が姿を消しつつある原因としては、欧米式のLDK化に伴い、テーブルやソファなどの家具を使用するようになって日本人のライフスタイルが変化し、洋風化に価値観を見出し、広まったこと。洋室よりも和室（純和風）を作るとコストが高くなりがちになると思われている事などが挙げられますが、板間（洋風）空間の一部に畳があっても良いのです。

畳のいいところは、住む人のライフスタイルにあわせて多目的、かつ自在に使えることです。昼間は座敷や応接間として機能し、夜は寝室に早変わり、といった使い方ができるのも畳の部屋ならでは。また、応接セットの入った洋間より、多人数の人が座れるのも畳の利点でもあります。

しかし、日本の住宅事情を考えて…別に一室、和室を造らなくても、「洗濯物をたたむ際」「お子さん、お父さんの昼寝場」「急な来客、泊り客」など、ほんの3帖ほどの畳でも十二分に用は足りるのです。

一戸当たりの住面積の狭い日本の住宅では、臨機応変に使用できる畳のスペースをもっと見直して有効に使いたいものですね。それこそ昔の、本来の使い方の様に板間に敷くだけで利用が出来ます。世界最高の建材である日本の畳を絶やさない為に皆様、畳の利用をお勧めします。

解説／山本康彦◎1968年神奈川県鎌倉市生まれ。18歳から職人として30年近く湘南の地で家つくりに携わる。土を利用しての建材、版築製品の研究・開発、販売などに従事。一級建築士だけではなく、古民家鑑定士などの資格も30以上持っており、伝統的な構法や建材にも造詣が深い。近代の建材（新建材）や工法の矛盾や実害を肌で感じ、人が住まう家というものを原点から見つめ直す。エコブームに流されないパッシブで地域循環型の家づくりをめざし、未だにすべては解明されていない伝統的な工法や素材について研究や開発に余念がない。

取材協力　株式会社ワイズ

〒253-0021　神奈川県茅ヶ崎市浜竹3-4-64
TEL：0467-88-3903　FAX：0467-88-3907
URL：http://www.ys-no1.co.jp
mail：ys-no1@ys-no1.co.jp